

教科名	数 学	週時間数	4	学年	1
使用教科書 及び副教材等	中学校数学1 (数研出版) 数学の学習ノート1年 (正進社) 計トレ80 (新学社)				

指導の重点	「思考力」 「知識・技能」 「表現力」		
教科のねらい	物事を一方向で見るのではなく、多面的にとらえることができる力を、数学の様々な問題を通して、生徒自らが模索しながら身につけていくことをねらいとする。また、数学的なものの考え方が、実際の生活の場面で役立つことを目指すとともに、基礎基本を身につけ、それを問題に応じて適切に使いこなす「活用力」を身に付ける。また自分の考えをしっかりと持つこと、それを仲間に伝えることができること、この両立を目指す。		
授業の進め方	毎時間、その授業での「めあて」を提示し、授業の最後に振り返りをさせることで、各自の課題を明確にし、次の授業につなげていく。内容については、教科書の例題を中心とし、問題集、プリント、i P a dなども効果的に利用しながら、基礎基本、活用力、自ら探求する姿勢などが身につくように支援していく。振り返りシート、学習班、ペア学習などを活用して授業を行う。プリントで応用問題にも挑戦していく。		
定期考査	出題方針	教科書の内容に準じて、基本的な数学力を問う問題を出題します。また、応用問題の出題により、数学的な見方や考え方の習熟度を計ります。	
	範囲 (予定)	1学期中間	正の数と負の数
		1学期期末	正の数と負の数、文字と式
		2学期中間	文字と式、1次方程式
		2学期期末	比例と反比例、平面図形
		学 年 末	空間図形、資料の整理とその活用、まとめ
学 習 方 法 (アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、関心を持って意欲的に問題に取り組みましょう。 ・まずは自分で考え、わからなければそのままにせず積極的に質問しましょう。 ・提出物の期限を必ず守りましょう。 ・例題を参考にして自分の力で解けるようになりましょう。 ・小グループでの話し合いを通して理解を深めると共に、知識の定着を図りましょう。 ・分からない問題があったら、その日のうちに解決できるようにしましょう。 		

評	観 点	評 価 規 準	評価方法
	①知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などを理解している。また、さまざまな事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・定期テスト ・授業プリントなど
	②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし、統計的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて、事象を簡潔・明瞭に表現する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・定期テスト ・授業プリントなど
	③主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学で培った力を普段の生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・授業プリント ・振り返りシート ・問題集 ・単元テスト ・自主学習シートなど

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単 元	学 習 内 容	時 数	学習のポイント
1	4	1. 正の数・負の数	・符号のついた数	2	<ul style="list-style-type: none"> ・負の数の意味と必然性を理解する。 ・正・負の数の大きさを理解する。 ・加法の計算方法を理解する。 ・減法の計算方法を理解する。 ・加減の混合計算ができるようになる。 ・乗法の計算方法を理解する。 ・除法の計算方法を理解する。 ・四則混合計算ができるようになる。 ・素因数分解ができる。 ・具体的な事象の問題を正・負の数を使って考えることができる。 ・単元のまとめや応用問題を解く。
			・数の大小	2	
	5		・加法	3	
			・減法	2	
6	5	・加法と減法の混じった式	2		
		・乗法	4		
	・除法	3			
	6	・四則	2		
・素因数分解		1			
6	2. 文字の式	・正の数、負の数の利用	2		
		・まとめ	1		
			・文字を使った式	2	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の意味を理解し、数量を文字を使って表すことができる。 ・文字式を書くときのきまりを知り、き
			・文字の式の表し方	2	

7		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな数量の表し方 ・式の値 ・1次式の加法、減法 ・1次式と数の乗法、除法 ・文字式の利用 ・関係を表す式 ・まとめ 	<p>2</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>・積や商が必要となる数量を文字式で表すことができる。</p> <p>・式の値の意味を理解する。</p> <p>・1次式の加法・減法の計算ができる。</p> <p>・単項式、多項式と数の乗法・除法ができる。</p> <p>・等式・不等式を理解し、表すことができる。</p> <p>・単元のまとめや応用問題を解く。</p>
	2	<p>3. 方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方程式とその解 ・等式の性質 ・1次方程式の解き方 ・比例式 ・1次方程式の利用 ・まとめ 	<p>1</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>1</p>	<p>・方程式及びその中の文字や解の意味を理解する。</p> <p>・等式の性質を理解し、それを用いて簡単な形の方程式が解ける</p> <p>・等式の性質を理解し、1次方程式を解くことができる。</p> <p>・比の値や比例式を理解し、解くことができる。</p> <p>・1次方程式を用いて解くことができる</p> <p>・単元のまとめや応用問題を解く。</p>
10				
	11	<p>4. 比例と反比例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関数 ・比例 ・座標 ・比例のグラフ ・反比例 ・反比例のグラフ 	<p>2</p> <p>3</p> <p>1</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>・関数の定義を理解する。</p> <p>・比例の定義を理解し、その特徴を式の形でとらえることができる。</p> <p>・座標平面上で、点の位置を表すことができる。</p> <p>・比例の関係をグラフに表すことができる。</p> <p>・反比例の定義を理解し、その特徴を式の形でとらえることができる。</p> <p>・反比例の関係をグラフに表すことができる。</p>
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・比例、反比例の利用 ・まとめ 	<p>3</p> <p>1</p>	<p>・事象から比例、反比例関係を見いだして、問題を解決できる。</p> <p>・単元のまとめや応用問題を解く。</p>
11		<p>5. 平面図形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面上の直線 ・図形の移動 ・作図の基本 ・円 ・まとめ 	<p>2</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>・平面上の点や直線の位置関係をとらえることができる。</p> <p>・平行移動、回転移動、対称移動の意味を理解している。</p> <p>・垂直二等分線、角の二等分線、垂線の作図方法を理解している。</p> <p>・円の性質を理解し、図形の中から見いだすことができる。</p> <p>・単元のまとめや応用問題を解く。</p>

	1	6. 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな立体 ・空間における平面と直線 ・立体のいろいろな見方 ・立体の体積 ・立体の展開図 ・おうぎ形の軽量 ・立体の表面積 ・球の体積と表面積 ・まとめ 	2 3 3 1 2 2 2 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の意味、角錐、円錐、多面体、正多面体について理解する ・空間における直線と平面の位置関係や、平面の決定条件を理解する。 ・立体を運動による図形ととらえたり、投影図からとらえたりできる。 ・体積の公式を理解し、体積を求めることができる。 ・柱体や錐体の展開図を理解し、かくことができる。 ・おうぎ形の弧の長さや面積は中心角に比例することを理解する。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 ・展開図を利用して、柱体、錐体の表面積を求めることができる。 ・公式を利用して、球の体積と表面積を求めることができる。 ・単元のまとめや応用問題を解く。
	2	7. 資料の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布とヒストグラム ・データの比較 ・累積度数 	4 2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・散らばりの程度を数値化したり、表やグラフで傾向を把握することができる。 ・相対度数の利用が有効であることを理解する。 ・資料の特性によって適切な代表値を判断することができる。 ・累積度数を求めることができる。 ・身のまわりの資料を活用し、その傾向について説明することができる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・ことがらの起こりやすさ ・まとめ 	2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の観察や多数回の試行の結果から確率を求めることができる。 ・単元のまとめや応用問題を解く。